

大学1年生におすすめする本10冊

01

『大学生になるってどういうこと？—学習・生活・キャリア形成』

植上一希、寺崎里水、藤野真 著 大月書店

学生生活をよりよく送るためのマニュアル本はたくさんありますが、具体的な事例はどうしても自分ゴトとして考えにくいものです。本書は大学生の学習活動はもちろんのこと、労働や生活に関するさまざまな「問い」について、読者

それぞれのこたえを導き出せるものになっています。大学1年生にとってはこれからの学生生活の道筋を得られるような、2年次以降の学生にとってはこれまでの学生生活を問い直せるような、そんな一冊です。

02

『大学では教えてくれない大学生のための22の大切なコト』

佐藤剛史編 西日本新聞社

大学生に対するマニュアル本の多くは大学内での活動を中心に書かれていますが、本書ではあえてほとんど触れていません。大学教員や助産師、新聞記者等の幅広い著者で構成されていて、「生」「食」「性」などの学生生活にかか

わる問題について扱われています。特に「生き方」の章ではボランティアやアルバイトに取り組む意味について言及されています。装丁もチャームングで親しみやすく、手に取りやすいのではないかと思います。

03

『フツーを生きぬく進路術 17歳編』

新しい生き方基準をつくる会 青木書店

本書はさまざまな進路の選択肢を具体的・実践的にわかりやすく解説されています。「17歳編」と書かれていますが、大学1年生の中には自分の進路について「本当にこれでよかったのか…」と思う人もいるかもしれません。そのような人に読んで

もらいたい一冊です。特に「大学に進学する」という章では、大学で学ぶ意味について考えさせられます。転職や家族形成に特化した「フツーをつくる仕事・生活術 28歳編」も所蔵しているのでぜひ。

04

『就活とブラック企業—現代の若者の働きかた事情』

森岡孝二編 岩波書店

本書は「ブラック企業の見分けかた」というシンポジウムでおこなわれた、過労死・過労自殺に取り組む弁護士や遺族、就活を経験した学生や支援団体の報告を取りまとめた一冊です。就活・転職に関するリアルな報告は実に貴重で、変動する社会

情勢の中で大学卒業後に不安を感じている学生には一度読んでほしい一冊です。本書のシリーズである「岩波ブックレット」は幅広いジャンルを扱っており厚さ数ミリと手軽なので初学者におすすめです

05

『やさしい教育心理学』

鎌原雅彦、竹綱誠一郎 著 有斐閣

教育心理学は教育をおこなう・受ける上で非常に有益な知識が詰まっている学問分野です。たとえば「どうやったら記憶力が上がるのだろう」「モチベーションがなかなか上がらない」「何をしてもうまくいかない」等の悩みを持っている人にと

って、教育心理学が何らかの手立てを教えてくれるだろうと思います。また、有斐閣アルマシリーズは大学のテキストにもよく用いられているので、概要だけおさえたいという初学者にお勧めです。

06

『「サブカル×国語」で読解力を育む』

町田守弘著 岩波書店

大学に入ってまず悩むことの一つに「文章が読めない」ことが挙げられます。大学で扱われる本は言葉が難解でとっつきにくい、そう思う方に一度読んでもらいたいです。本書は国語の授業づくりについて主に書かれているのですが、

教員目線で「どうすれば読解力が育つのか？」が突き詰められており、読者にとっても読解力を身に着けるための知見がたくさんあります。親しみのあるアニメや漫画、ゲームを使った実践が書かれているのも特徴です。

07

『読解力の基本—大切なのに、だれも教えてくれない 72 のテクニック』

速越陽介著 日本実業出版社

正しい日本語の文章を書くためには様々なジャンルの文章をたくさん読んでいくこと大切です。本書では、正しい日本語の使い方から始まり、新聞や小説、学術書、さらには取説の読み方まで扱われています。例文もついていてとても分かりやす

いです。「哲学書の読み方」が一つの章として扱われているのも特徴で、その中で「哲学とは「○○とは何か？」の繰り返し」(p.109)であると書かれています。学術的な文章の読み書きに有用だと思います。

08

『コピペと言われないレポートの書き方教室－3つのステップ コピペから正しい引用へ』 山口裕之著 新曜社

レポートを書くときに「コピー＆ペーストはダメ」と言われますが、引用と何が違うのだろうと思ったことはありませんか？本書ではその違いを踏まえたうえで、レポートのフォーマットから文末表現等のテクニックまで幅広く扱われてい

ます。また、単なる方法論だけではなく、先行研究を検討する意味についても丁寧に示されているのも、これから論文執筆するうえで魅力的です。自力でレポートを作成するために必要な情報が盛りだくさんです。

09

『教育問題はなぜまちがって語られるのか？』

広田照幸、伊藤茂樹著 日本図書センター

大学の授業、特に社会学系の授業で「批判的に考えてみよう」と言われたことはありませんか？でも、言われたことに納得してしまうしなかなか批判するポイントがわからないと悩む人も少なくないでしょう。本書では、メディアでも

よく取り上げられているような教育問題のあり方・作られ方を疑ってみることを通して、批判する場合の観点を見つけることができます。これまでの学校経験を踏まえて考えることでより具体的に読めると思います。

10

『新聞奨学生―奪われる学生生活』

横山真著 大月書店

「学費や生活費を賄うのに手いっぱい」という大学生が実は日本にはたくさんいます。本書では、新聞社に学費を工面してもらって新聞配達しながら生活する大学生(福大卒！)の実際の様子から、学生生活と労働の両立についてリ

アルに描かれています。日本の大学教育をめぐる制度的な補償の問題と、奨学金制度に関する丁寧な分析は必見です。内容を一読した後、卒業論文をもとに執筆された本書の文章構成にも着目して読んでみてください。

2023.1.30